

帝國裁判所構成法草案

大隈

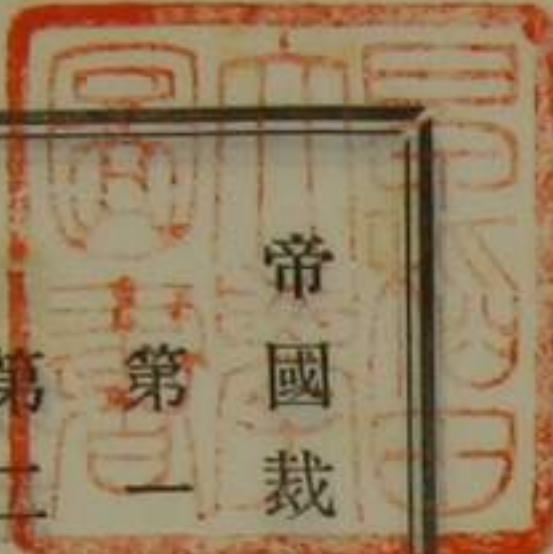
1276

機密



114
A2698

帝國裁判所構成法案目次



第一編 裁判權	自第一條
第二章 總則	自第一條
第三章 區裁判所	自第一條
第四章 地方裁判所	自第一條
第五章 控訴院	自第一條
第六章 大審院	自第一條
第三編 裁判所及檢察局ノ官吏	自第六十條
第一章 裁判所又ハ檢察局ト爲ルニ必要ナル	自第六十條
第二章 裁判所	自第七十一條
第三章 檢察局	自第八十五條

大正十一年四月贈

第四章	裁判所書記	自第九十一條
第五章	執達吏	自第九十九條
第六章	廷丁	自第一百零七條
第四編	司法事務ノ取扱	自第一百零八條
第一章	開廷	自第一百零九條
第二章	裁判所ノ用語	自第一百一十條
第三章	裁判ノ評議及ヒ言渡	自第一百一十一條
第四章	裁判所及ヒ檢事局ノ事務章程	自第一百一十二條
第五章	司法年度休暇及ヒ休日	自第一百一十五條
第六章	法律上ノ共助	自第一百一十六條
第五編	司法行政ノ職務及ヒ監督權	自第一百一十七條
		自第一百四十一條
		至第一百五十一條

帝國裁判所構成法草案

第一編 裁判權

第一條 裁判所ハ獨立ニシテ法律以外ノ權力ニ服從スルヲ無シ

第二條 凡ソ裁判權ハ此法律ニ依テ設ケタル通常裁判所之ヲ行フ但陸海軍裁判所其他特別裁判所及ヒ例外裁判所ノ行フ裁判權ハ此限ニ在ラス

第三條 例外裁判所ハ戰爭戒嚴又ハ暴動ノ時ニ行フ爲メ定メタル特別法ニ依ルニアラサレハ之ヲ設クルヲ得ス

第四條 警察官ノ行フ裁判ノ權ハ違警罪事件ニ限ル但此權ハ當然裁判所ノ審問ヲ請求スルヲ妨クルヲ無シ

第五條 通常裁判所ノ裁判權ハ官吏又ハ國ニ對スル訴訟ニ付テモ之ヲ行フ但特別法ニ依テ裁判スヘキモノハ此限ニ在ラ

第二編 裁判所及ヒ検事局

第一章 總則

第六條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一 區裁判所

第二 地方裁判所

第三 控訴院

第四 大審院

區裁判所ヲ除クノ外ヲ合議裁判所トス合議裁判所トハ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判スルモノヲ謂フ但訴訟法若クハ特別法ニ別段規定シタル事件ハ此限ニ在ラス
第七條 裁判所ノ設置及ヒ廢止ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
裁判所ノ位置及ヒ其管轄區域ノ變更ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 各裁判所ニ裁判所長部長ヲ合セテ相應ナル員數ノ判
事ヲ置ク

第九條 各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事局ハ刑事事件ニ付キ
公訴ヲ起スト之ヲ取扱フトニ必要ナル總テノ手續ヲ爲シ法
律ノ適用ヲ請求シ及ヒ裁判所ノ判決カ適當ニ執行セラル、
ヤテ監視シ又有要ト思料スルキハ總テノ民事事件ニ於テ通
知ヲ求メ意見アラハ之ヲ述フ又檢事局ハ裁判所ニ屬シ若ク
ハ關スル總テノ司法事件及ヒ行政事件ニ付キ公益ノ代表者
トシテ法ニ從ヒ其權内ニ在ル監督權及ヒ監督職務ヲ行フ
檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其事務ヲ取扱フ
檢事局ノ管轄區域ハ其附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ
同シ
若シ一人ノ檢事若クハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件

ヲ取扱フヲ得サルキハ裁判所長又ハ區裁判所ニテハ判事
若クハ監督判事ハ其事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ
檢事ノ代理ヲ命シ其事件ヲ取扱ハシムルヲ得

第十條 檢事局ニ檢事總長檢事長檢事正ヲ合セテ相應ナル
員數ノ檢事ヲ置ク

第十一條 各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ總テノ往復計算
出納記録其他此法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱
フ
裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ右ノ如キ事務ヲ取扱
フ爲メ必要アリト認メタルキニ限り別ニ書記課ヲ設クルヲ
得但合議裁判所ノ檢事局ニ限ル
司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲メ特別官吏ヲ裁
判所ニ置クヲ得

第十二條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル總テノ文書ヲ送達シ及ヒ裁判所ノ裁判ヲ執行スルノ權ヲ有ス
其他執達吏ハ此法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ニ任ス

第十三條 法律ヲ以テ特定セサル左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルキハ關係裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所カ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 當然權限アル裁判所カ法律若クハ特別ノ事情ニ因リ差支アリテ裁判權ヲ行フヲ得ス且此法律第十六條ニ依テ代理ヲ命セラレタル裁判所モ亦同様ノ差支アル

第二 裁判所ノ管轄區域ノ境界確カナラサルカ爲メ其權

限ニ付キ疑ヲ生シタルハ

第三 其法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ

裁判所裁判權ヲ互有スルハ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セサルノ確定判決ヲ爲シ

又ハ確定判決ヲ受ケタルモ其裁判所ノ一裁判權ヲ行フ

ハ

第二章 區裁判所

第十四條 區裁判所ノ裁判權ハ其裁判所ニ判事二人以上ヲ置

キタルモ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ其裁判事務ヲ司

法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ毎司法年度ノ終ニ臨ミ次年

度ノ爲メ判事ニ分配ス

此事務分配ハ毎年地方裁判所長豫メ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ爲シタル事ハ裁判事務分配ニ從ヘハ其裁判所ノ他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フ
ト無シ
區裁判所ニ判事二人以上ヲ置キタルキハ司法大臣ハ其中ノ一人ヲ監督判事トシ其裁判所ノ行政事務ヲ委任ス
第十五條 事務ノ分配一タヒ定マリタルキハ一人ノ判事ノ事務過多トナルカ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久シク缺勤スル如キ繼續スル不都合ヲ生シタルニアラサレハ司法年度中之ヲ變更セス
第十六條 區裁判所ノ判事差支アルキハ毎年地方裁判所長ノ豫メ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但監督判事ノ職務ニ付テハ其裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス
區裁判所ニ於テ法律若クハ特別ノ事情ニ因リ差支アリテ事

務ヲ取扱フヲ得サルキ之ニ代ルヘキ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年豫メ之ヲ定ム
第十七條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ特ニ第二十九條ニ定メタルモノヲ除キ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス但反訴ニ關シテハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ
第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ係ル請求
第二 價額ニ拘ハラズ左ノ訴訟
(イ) 住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコニ關シ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟
(ロ) 不動産ノ經界ノミニ係ル訴訟

(ハ) 占有ノミニ係ル訴訟

(三) 雇主ト雇人トノ間ニ起リタル訴訟但雇期限一年ヲ超過シタル契約ニ係ラサルキ

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店

ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ件フ旅行荷物ノ運送料

(二) 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル之ニ件フ旅行荷物金錢又ハ有價物

第十八條 區裁判所ハ非訟事件ニ付キ法律ニ定メタル範圍及ヒ方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第二條 未成年者瘋癲者白痴者失踪者其他法律若クハ判決

ニ因リ自ラ事務ヲ執ルノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ク

ハ管財人ヲ監督スル事

第二條 不動産及ヒ船舶ニ關スル權利關係ヲ登録スル事

第三條 商業登記簿船舶ノ登記簿及ヒ特許局ニ登録シタル

特許權意匠及ヒ商標ノ登記簿ヲ主管シ其登録ヲ爲ス事

第十九條 區裁判所ハ刑事事件ニ於テ左ノ事項ニ付キ裁判權

ヲ有ス

第一條 違警罪

第二條 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル

二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三條 刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ

禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情前號ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局又ハ豫審判事ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ
右手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其情第二號ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト見ユルキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セサルヲ言渡ヲ爲ス此場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲メ適當ノ手續ヲ爲ス
第二十條 區裁判所ノ其他ノ權限ハ此章ニ掲ケタル事件ニ關スル特別法及ヒ訴訟法ニ之ヲ定ム
第二十二條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所ノ檢事局ノ檢事ノ事務ハ其地ノ警察官又ハ林務官ヲシテ之ヲ取扱ハシムルヲ得
司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡區市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルヲ得
第三章 地方裁判所
第二十二條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス
各地方裁判所ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク
第二十三條 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク
地方裁判所長ノ職務ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督スルニ在リ
地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ムルニ在リ
第二十四條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若クハ

二人以上ニ其裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事事件ノ豫審ヲ爲スヲ命ス

第二十五條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ毎司法年度ノ終ニ臨ミ次ノ年度ノ爲メ各部及ヒ各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及ヒ部員ノ配置及ヒ所長部長部員ノ差支アルキノ代理モ亦毎年豫メ之ヲ定ム

以上掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及ヒ部ノ上席判事一人會議シテ之ヲ定ム此會議ハ裁判所長ヲ會長トシ過半数ヲ以テ議決ヲ爲ス可否同數ナルキハ會長之ヲ決ス

地方裁判所長ハ次年已レノ居ラントスル部ヲ指定ス可シ
第二十六條 或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若クハ休暇ノ始ニ臨ミ未ダ終結ニ至ラサルモノハ裁判所

長便利ト思量スルキハ同部員ヲシテ繼續シテ之ヲ結了セシムルヲ得

豫審判事ノ未ダ終結ニ至ラサル事務ヲ結了スルヲ付テモ前項ニ同シ

第二十七條 第二十五條ニ從ヒ事務ノ分配及ヒ判事ノ配置一タヒ定マリタルキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務過多トナリ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久シク缺勤スル如キ繼續スル不都合アルニアラサレハ司法年度中之ヲ變更セ

ス
裁判所ノ事務其現在ノ部ニハ過多ナリト認ムル場合ニ於テハ司法大臣適宜ト思量スルキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルヲ得

第二十八條 地方裁判所ノ判事支差アリテ或ル事件ヲ取扱フ

トナ得ス同裁判所ノ判事申其代理ヲ爲シ能フ者ナキ場合ニ於テ其事件要急ナルキハ裁判所長ハ其管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其代理ヲ命スルヲ得

第十九條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

(イ) 區裁判所ノ權限又ハ第四十二條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ總テノ請求

(ロ) 金額若クハ價額ニ拘ハラス國ヨリ爲シ又ハ之ニ對シテ爲ス總テノ請求

(ハ) 金額若クハ價額ニ拘ハラス官吏ニ對シテ爲ス總テノ請求

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限并ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル總テノ刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十一條 地方裁判所ハ破産事件ニ付キ一般ノ裁判權ヲ有

ス

第三十二條 地方裁判所ハ非訟事件ニ係ル區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對シ法律ニ定メタル場合ニ於テ爲シタル抗告ニ付キ裁判權ヲ有ス

第三十三條 地方裁判所ノ其他ノ權限并ニ其裁判權ヲ行フノ範圍及ヒ方法ニシテ此法律ニ定メサルモノハ訴訟法并ニ特別法ニ之ヲ定ム

第三十四條 司法大臣ハ地方裁判所ト其管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若クハ交通不便ナルカ爲メ至當ト思量スルキハ地方裁判所ニ屬スル民事及ヒ刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲メ一若クハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム
支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若クハ近隣ノ區裁判所ノ

判事ヲ用ユルヲ得此判事ノ選用ハ司法大臣ニ屬ス
司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及ヒ檢事ヲ命ス司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルヲ得

代理ニ關スル第二十八條ノ規定ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス
第三十五條 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ總テノ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其部ニ列席スルヲ得ス
其他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ
第三十六條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ總テノ事務ノ取扱ヲ指揮分配及ヒ監督ス但檢事局

ノ其他ノ檢事ハ事務取扱ニ付テハ何レノ事件ト雖モ特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章 控訴院

第三十七條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク

第三十八條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ノ職務ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務

ヲ監督スルニ在リ

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分

配ヲ定ムルニ在リ

第三十九條 事務ノ分配及ヒ結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二

十五條第二十六條及ヒ第二十八條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院

ニ適用ス

第一 右各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院

長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二 控訴院ノ判事差支アリテ或ル事件ヲ取扱フヲ得

ス同院ニ其代理ヲ爲シ能フ判事ナキ場合ニ於テ其事件

要急ナルキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院

長ヨリ其控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其裁判

所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルヲ得但豫備判事ヲ

用ユルヲ得ス

第四十條 控訴院ハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ爲シタル地方

裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三 地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタ

ル抗告

第四十一條 控訴院ハ帝室又ハ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付キ
第一審及ヒ第二審ノ裁判權ヲ有ス但第一審ノ訴訟手續ハ地
方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第四十二條 控訴院ノ其他ノ權限并ニ其裁判權ヲ行フノ範圍
及ヒ方法ニシテ此法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法
ニ之ヲ定ム

第四十三條 控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判
スヘキ總テノ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ
之ヲ審問裁判ス其五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス
其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十四條 第四十一條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ
以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判

事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其五人又ハ七人ノ
判事中一人ヲ裁判長トス

第四十五條 各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク
檢事長ノ權并ニ其他ノ檢事ノ權ニ付テハ第三十六條ヲ適用
ス

第五章 大審院

第四十六條 大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク

第四十七條 大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ノ職務ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務
ヲ監督スルニ在リ
大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分
配ヲ定ムルニ在リ

第四十八條 大審院ノ事務ノ分配并ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長豫メ之ヲ定ム

大審院長ハ次年已レノ居ラントスル部ヲ指定ス可シ
大審院ノ判事差支アリテ或ル事件ヲ取扱フヲ得ス同院ニ其代理ヲ爲シ能フ判事ナキ場合ニ於テ其事件要急ナルキハ大審院長ハ其所在地ノ控訴院長ヲシテ差支アル判事ヲ代理スル爲メ其院ノ判事ヲ出サシムルヲ得

第四十九條 大審院長ハ何時ニテモ部長若クハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルヲ得

第五十條 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス
司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十七條ノ規定ヲ適

用ス

第五十二條 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其訴訟一切ノ事ニ付テハ下級裁判所ヲ羈束ス

第五十二條 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付キ曾テ一若クハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルキハ其部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其報告ニ因リ事件ノ性質ニ從テ民事ノ總部若クハ刑事ノ總部又ハ民事及ヒ刑事ノ總部ニ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及ヒ裁判スルヲ命ス

第五十三條 大審院ハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス
第一 終審トシテ

(イ) 第四十條 第二號ニ依テ爲シタル判決及ヒ第四十

二條ノ第一審ノ判決ニアラサル控訴院ノ判決ニ對スル上告

(ロ) 控訴院ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪并ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノ、豫審及ヒ裁判

第五十四條 前條第二號ニ掲ケタル事件ニ付キ大審院ハ必要アリト認ムルキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲メ控訴院若クハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クヲ得

此場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルヲ得
第五十五條 大審院ノ其他ノ權限并ニ大審院ノ裁判權ヲ行フ

ノ範圍及ヒ方法ニシテ此法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ニ之ヲ定ム

第五十六條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ總テノ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ
第五十七條 第五十二條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席參與スルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若クハ刑事ノ總部聯合スルキ又ハ民事及ヒ刑事ノ總部聯合スルキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ已レ至當ト思量スルキハ總部ニ長タルノ權利ヲ有ス

第五十八條 大審院長ハ第五十三條ノ規定ニ依リ大審院ニ於

テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付キ大審院ノ
判事ニ豫審ヲ命ス但便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ
ナサシムルヲ得

第五十九條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長ノ權並ニ其他ノ檢事ノ權ニ付テハ第三十六條ヲ適
用ス

第三編 裁判所及ヒ檢事局ノ官吏

第一章 判事又ハ檢事ト爲ルニ必要ナル準備及ヒ資
格

第六十條 判事又ハ檢事ト爲ルニハ此法律ニ掲ケタル例外
ノ場合ヲ除キ二回ノ競争試験ヲ經ルヲ要ス

第六十二條 志願者ノ此二回ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナ
ル資格並ニ此試験ニ關スル總テノ細目ハ判事檢事登用試験
規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回ノ試験ニ及シタル者ハ第二回ノ試験ヲ受クル以前
試験トシテ裁判所及ヒ檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲ス
ヲ要ス
帝國大學法科卒業生ハ第一回ノ試験ヲ經スシテ試験補ヲ命セ
ラル、ヲ得

此修習ニ關スル細目モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十二條 試補ハ前條ニ掲ケタル實地修習ヲ始ムル前忠實

ニ天皇ニ仕ヘ職分ヲ盡スヘキヲ式ニ從ヒ宣誓又ハ確言ス

第六十三條 司法大臣ハ控訴院長ノ報告ニ依リ試補ノ行狀罷

免スルニ足レリト認ムルキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルヲ得

此罷免ニ關スル細目モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十四條 一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其修習ヲ現ニ監

督スル判事ノ指揮アレハ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取

扱フヲ得

豫審判事及ヒ地方裁判所ノ受命判事モ亦其附屬ノ試補ヲシ

テ已レニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルヲ得

第六十五條 試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フ

ノ權ヲ有セス

第一 訴訟事件非訟事件ニ拘ハラズ裁判ヲ爲ス事

第二 證據ヲ調フル事(前條第二項ノ場合ヲ除ク)

第三 登記簿及ヒ記入簿ニ登録ヲ爲ス事

第六十六條 第二回ノ競争試験ニ及シタル試補ハ判事又ハ

檢事ニ任セラル、ヲ得

第六十七條 新任ノ判事又ハ檢事ハ缺位アルキハ之ヲ區裁判

所若クハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若クハ地方裁判所

ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ缺位アルマテ之ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ

執務スルヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所

又ハ此等ノ裁判所ノ檢事局ニ用ユ

第六十八條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ此等ノ裁判所ノ檢

事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事

差支アリテ職務ニ従事スルヲ得サルニ通常ノ代理法ニ依
リ難キコアルルハ此法律ノ原則ニ從ヒ司法大臣ノ許可ニ因
リ其判事又ハ檢事ヲ代理スルヲ得
又司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ此等ノ裁
判所ノ檢事局ノ檢事ニ缺位ノ存スル間ハ此法律ノ許ス限リ
豫備判事又ハ豫備檢事ニ其缺位ヲ充タスヲ許スヲ得
第六十九條 三年以上帝國大學法科教授若クハ辯護士タル者ハ
此章ニ掲ケタル試験ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラル、
ヲ得

第七十條 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、
ヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ
此限ニ在ラス

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
第三 債務ノ辨濟ヲ終ヘサル顯然タル無資力者及ヒ破産
者

第二章 判事

第七十二條 判事ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ天皇之ヲ任ス其任
官ヲ終身トス

第七十二條 判事ノ補職ハ司法大臣之ヲ爲ス

第七十三條 控訴院長及ヒ大審院ノ部長ノ補職ハ内閣之ヲ爲
ス

大審院長ハ天皇之ヲ命フ
第七十四條 何人ト雖モ五年以上判事檢事又ハ帝國大學法科
教授若クハ辯護士タル者ニアラサレハ控訴院判事ニ補セラ

ル、ヲ得ス

豫備判事豫備検事ノ勤務ハ前項ノ年限ニ通算ス

第七十五條 何人ト雖モ十年以上判事検事又ハ帝國大學法科教授若クハ辯護士タル者ニアラサレハ大審院判事ニ補セラ

ル、ヲ得ス

豫備判事豫備検事ノ勤務ハ前項ノ年限ニ通算ス

第七十六條 第七十四條及ヒ第七十五條ニ掲ケタル時期ヲ算フルニハ補職ノ時マテ右列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ

從事シタルヲ必要トセス

第七十七條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スヲ得ス

第一 公然政事ニ關係スル事
第二 政會ノ會員又ハ政社ノ社員ト爲リ又ハ法律ニ定ムル所ノ議會ノ議員ト爲ル事

第八第三條 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トシタル公然ノ職

ヲ受務ニ就ク事

第八第四條 商業ヲ營ミ又ハ其他行政規則ヲ以テ禁シタル業務

ニ營ム事

第七十八條 次條ノ場合ノ外判事ハ公務停止ヲ惹起スル懲戒

上又ハ刑事上ノ判決ニ因ルニアラサレハ其意ニ反シテ轉官

又ハ轉職轉所又ハ減俸又ハ停職セラレ又ハ退官セシメラル

ル、ヲ無シ但豫備判事タルキ及ヒ補缺ノ必要ナル場合ニ於テ

轉職轉所ヲ命セラル、ハ此限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若クハ其間ニ於テ法律ノ

許ス停職ニ關係アルヲ無シ

第七十九條 判事身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルヲ

能ハサルニ至リタルキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總

會ノ決議ニ依リ之ニ休職ヲ命スルヲ得
第八十條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更スル場合又ハ裁判
所ヲ廢シタル場合ニ於テ之カ爲メ補所ナキニ至リタル判事
ヲ補スヘキ缺位ナキハ司法大臣ハ一時之ニ俸給ノ半額ヲ
給シテ缺位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス
第八十一條 判事ハ一定ノ俸給ヲ受ク
判事ノ官等俸給及ヒ進級ノ順序ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八十二條 判事ハ其俸給ノ外裁判事務取扱ノ爲メニ他ノ報
酬ヲ受クルヲ得ス但法律ノ許シタル手當及ヒ賠償ハ此限
ニ在ラス
第八十三條 判事ハ退官シタルキハ恩給法ノ規定ニ從ヒ恩給
ヲ受クルノ權利ヲ有ス
第八十四條 判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追

ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ハラズ引續キ之ヲ給ス

第三章 檢事

第八十五條 第七十一條第七十二條第八十一條第八十二條及
ヒ第八十三條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス但檢事總長及ヒ檢事
長ノ補職ハ内閣之ヲ爲ス
第八十六條 檢事ハ公務停止ヲ惹起スル懲戒上又ハ刑事上ノ
判決ニ因ルニアラサレハ其意ニ反シテ之ヲ免官スルヲ得
ス
第八十七條 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事
務ニ關涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フヲ得ス
第八十八條 檢事ハ其上官ノ命令ニ從フ
第八十九條 檢事總長檢事長及ヒ檢事正ハ其各管轄區域内ノ
裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權

ヲ有ス

又検事總長、検事長及ヒ検事正ハ其管轄區域内ニ於テ某検事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ検事ニ移スノ權ヲ有ス

第九十條 司法警察官ハ己レニ對シ検事ノ職務上其検事局管轄區域内ニ發シタル總テノ命令及ヒ其検事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法官廳及ヒ行政官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ執務シ前項ノ命令ヲ受ケ及ヒ之ヲ執行スルノ職務ニ任スル者ヲ定ム

第四章 裁判所書記

第九十一條 裁判所ニ此法律第十一條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及ヒ合議裁判所ノ各部ノ爲メ少クトモ一

人ノ書記ヲ置ク

第九十二條 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及

ヒ大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及ヒ検事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタル

キハ其一人ヲ監督書記トス

監督書記及ヒ書記長ハ各其上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ

事務ヲ指揮監督ス

第九十三條 書記其職務ノ範圍内ニ於テ爲シタル總テノ事ハ

既ニ定マリタル事務分配ニ從ヘハ他ノ書記ニ屬シタリトノ

事實ノミニ因リ其効力ヲ失フヲ無シ

第九十四條 書記ノ任補ハ司法大臣之ヲ爲ス

書記長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ之ヲ任ス其補職ハ司法大臣

之ヲ爲ス

書記及ヒ書記長ハ一定ノ俸給ヲ受ク
書記及ヒ書記長ノ官等俸給及ヒ進級ノ順序ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム
書記及ヒ書記長恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル場合及ヒ其金
額ハ恩給法ヲ以テ之ヲ定ム
第九十五條 書記ニ任セラル、ニハ豫メ試験ヲ經ルヲ要ス
志願者ノ此試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格并ニ此試験及ヒ
試験ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關スル總テノ細目ハ裁判所
書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム
書記長ニ任セラル、ニハ少クトモ五年以上書記ノ職務ニ引
續キ從事シタル者ニ限ル別ニ高等試験ヲ經ルヲ要セス
第九十六條 書記ニ任セラレタル者ハ缺位ナキ間ハ豫備書記
ニ補ス

豫備書記ハ一時書記トシテ執務スルヲ命セラル、ヲ得
第九十七條 書記ハ其上官ノ命令ニ從フ
裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ判事一人ナルキ
ハ其判事ノ命令ニ從フ
又書記ハ檢事局ニ用サラル、キ又ハ特別ノ事務ニ付キ判事
若クハ檢事ニ附屬シタルキモ亦其檢事局又ハ判事若クハ檢
事ノ命令ニ從フ
若シ此命令カ口述ノ書取ニ係ルカ又ハ書類記録ノ錄製若ク
ハ變更ニ係リテ其命セラレタル錄製若クハ變更ヲ事情若ク
ハ事實ニ因リ正當ナラスト認ムルキハ其錄製若クハ變更ヲ
爲スニ當リ書記ハ己レノ意見ヲ記シタル説明書ヲ之ニ添フ
ルヲ得
其他書記ノ職務及ヒ其事務取扱方法ハ書記ニ關スル規則中

ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十八條 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若クハ監督判事ハ其裁判所ニ用ヰラル、試補ニ書記ノ事務ヲ一時取扱フヲ許スヲ得

此場合ニ於テ試補カ職務上署名スルキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十九條 豫備書記ハ事務ヲ取扱フニ付キ書記ト同様ノ權ヲ有ス但書記規則中制限ヲ爲シタルモノハ此限ニ在ラス

第五章 執達吏

第一百條 各區裁判所ニ此法律第十二條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第一百二條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及ヒ之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其管轄區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及ヒ補

スルノ權ヲ委任スルヲ得

第一百三條 執達吏ハ手数料ヲ受ク其手数料一定ノ額ニ達セサルキ保護金ヲ受ク

第一百三條 執達吏ニ任セラレ得ルニハ曾テ官吏タルカ又ハ執達吏若クハ書記ノ登用試験ヲ經テ豫メ執達吏タルノ資格ヲ有スルヲ要ス

其他必要ナル資格并ニ試験及ヒ試験ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關スル細目ハ執達吏登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一百四條 執達吏ハ其所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其職務ヲ行フノ權ヲ有ス

第一百五條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ總テ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但書記ヨリ直接ニ若クハ郵便

ヲ以テ送達スルヲ法律ノ許ス場合ハ此限ニ在ラス
又執達吏ハ刑事事件ニ付キ警察官ヲ以テ執行ヲ爲サ、ル場
合ニ限り裁判所ノ裁判ヲ執行ス
其他執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ニ之ヲ定ム
第百六條 執達吏ハ其職ニ補セラルル前職務ヲ適實ニ行フ爲
メ充分ナル保證金ヲ出スヲ要ス
其他執達吏ノ行フ職務并ニ右保證金ノ價額及ヒ性質ニ付テ
ノ細目ハ司法大臣之ヲ定ム
第百七條 執達吏ハ其所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記
及ヒ其裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル
書記及ヒ其書記ノ上官ノ命令ニ從フ
第六章 廷丁
第百八條 廷丁ハ大審院控訴院及ヒ地方裁判所ニ於テハ裁判

所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及ヒ其雇ヲ解
ク
第百九條 廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及ヒ其他司法大臣ノ發シ
タル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシムル爲メ之ヲ
用ユ
區裁判所ハ執達吏ヲ用ユルヲ能ハサルキハ其裁判所所在地
ニ於テ書類ヲ送達スル爲メ廷丁ヲ用ユルヲ得

第四編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第一百十條 開廷ハ裁判所又ハ支部ヲ設ケタル地ニ於テ之ヲ爲

ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要アリト認ムルキハ區裁判所
ヲシテ其管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムル
ヲ得

第一百十一條 訴訟審問ノ上席及ヒ指揮ハ合議裁判所ニ於テハ

開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シ
タル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第一百十二條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルキハ其決議ハ其理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡スキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシム可シ

第一百十三條 裁判長ハ公開ヲ停メタルキト雖モ入廷ノ特許ヲ與フルヲ至當ト思量スル者ヲ入廷セシムルノ權利ヲ有ス
第一百十四條 裁判長ハ婦女兒童及ヒ相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルヲ得其理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第一百十五條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第一百十六條 裁判長ハ訴訟審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

又裁判長ハ其者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノ時マテ勾留スルノ必要アリト認ムルキハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノ時裁判所ハ之ヲ釋放スルヲ命スルカ又ハ五圓以下ノ罰金若クハ五日以下ノ拘留ニ處スルヲ得
此處罰ニ對シテハ上告ヲ許スト雖モ控訴ヲ許サス且其所爲カ輕罪若クハ重罪ニ該ルヘキキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スヲ得

第一百十七條 前條ノ規定ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及ヒ鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ此等ノ者ヲ閉廷ヲ待タスシテ即時ニ罰ス

ルヲ得

第二 犯人原告ナルキハ裁判所ハ處罰ノ上尙ホ本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ滌除スルマテ其審問ヲ中止スルヲ得

第一百十八條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ユル辯護士ニ對シ同事件ニ付キ引續キ陳述スルノ權利ヲ行フヲ禁スルヲ得其禁止ハ此行狀ニ對スル懲戒上ノ訴追ヲ妨ケス

第一百十九條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲メ第一百十六條第一百十七條及ヒ第一百十八條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審ヲ爲シ又ハ命ニ因リ執務スル判事又ハ法ニ從ヒ右職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フヲ得

此場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルヲ得

豫審判事又ハ其命ヲ受ケタル試補カ命令ヲ爲シタルキハ其判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若クハ刑事支部ニ於テ右ノ異議ヲ裁判ス命ニ因リ執務スル判事又ハ其命ヲ受ケタル試補カ命令ヲ爲シタルキハ其判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第一百二十條 第一百十六條第一百十七條第一百十八條及ヒ第一百十九條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及ヒ其理由ヲ記ス其所爲カ重罪若クハ輕罪ニ該ルヘキカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルキハ詳細ニ之ヲ記入ス裁判長ハ其事件ヲ更ニ裁判スル權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第一百二十一條 判事檢事及ヒ裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ職服ヲ著ス

右開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第二百二十二條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユ
當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ユルヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ユ

第二百二十三條 通事ノ任命及ヒ使用并ニ訴訟手續上其行フヘキ職務ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ發ス

第二百二十四條 通事ノ用ヲ容易ニ得ルヲ能ハサルキハ書記ハ相應ニ其言語ニ通セハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラル、ヲ得

第二百五條 外國人ノ當事者タル訴訟ニ利害ノ關係アル總

テノ人及ヒ其訴訟ノ審問ニ參與スル總テノ官吏カ或ル外國語ニ通スルキハ裁判長便利ト思量スルニ於テハ其外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スヲ得但其審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章 裁判ノ評議及ヒ言渡

第二百二十六條 合議裁判所ノ裁判ハ此法律ノ規定ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及ヒ之ヲ言渡ス

第二百二十七條 三日ヲ超過シテ繼續スルノ見込アル刑事ノ審問ニ於テハ裁判所長ハ之ニ立會ハシムル爲メ補充判事一人ヲ命スルヲ得此補充判事ハ其審問中或ル判事カ疾病其他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及ヒ裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第二百二十八條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但豫備判事及ヒ試補

ノ傍聽ヲ妨ケス

此評議ハ其裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス

此評議ノ議事并ニ各判事ノ意見及ヒ多少ノ數ニ付テハ嚴ニ

秘密ヲ守ルヲ要ス

第二百二十九條 評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ

最モ低キ者ヲ始メトシ裁判長ヲ最終トス官等同シキキハ年

少ノ者ヲ始メトシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始メトス

第三百十條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付キ判事ノ意見三說以上ニ分レ其說各過半數ニ至ラ

サルキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合

算ス

刑事事件ニ付キ其意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサル

キハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益

ナル意見ニ合算ス

第三百十一條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付キ己レノ意見ヲ表

スルヲ拒ムヲ得ス

第四章 裁判所及ヒ檢事局ノ事務章程

第三百十二條 裁判所及ヒ檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司

法大臣之ヲ定ム

控訴院長及ヒ檢事長ハ其規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判

所及ヒ檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱及ヒ成ルヘク統一

ノ取扱ニ付キ殊ニ裁判所及ヒ檢事局ノ開廳時間及ヒ開廷ノ

時日ニ付キ訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其事務章程ヲ定ム但之ヲ實施スル前司法大臣

ノ認可ヲ受ク

第五章 司法年度休暇及ヒ休日

第三百三十三條 司法年度ハ通常ノ曆年ニ從ヒ一月一日ニ始マ
リ十二月三十一日ニ終ハル

第三百三十四條 裁判所ノ夏季休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月
十日ニ終ハル

第三百三十五條 休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル總テノ
民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セス

第一 爲替手形若クハ約束手形其他ノ流通證書ニ係ル請
求

第二 船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求

第三 財産差押事件

第四 住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占
據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ
賃貸人ノ差押ヘタルヲニ關シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ

起リタル訴訟

第五 養料ノ請求

第六 保證ヲ出サシムルノ請求

第七 取掛リタル建築ノ繼續ニ係ル事件

第八 其他區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ要ス
ル所ニ從ヒ休暇部若クハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スル
コトヲ正當トスルニ足レル要急ノモノト思量シタル請求
若クハ事件

第三百三十六條 休暇中ト雖モ刑事訴訟非訟事件判決執行破産
事件并ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ル總テ
ノ訴訟ハ之ヲ停止スルコト無シ

第三百三十七條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲メ休
暇部ト稱スル一若クハ二以上ノ部ヲ設ク

此部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十六條ノ規定ハ此部ニモ亦之ヲ適用ス
二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第一百三十八條 裁判所ハ左ニ掲ケタル日ヲ除キ年中毎日開廳ス

第一 一月一日

第二 紀元節

第三 天長節

第四 日曜日

第五 勅令又ハ閣令ヲ以テ休日ト定メタル日

第六章 法律上ノ共助

第一百三十九條 裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ニ定メタル場合ト方法ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

右法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第一百四十條 檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付キ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第一百四十三條 裁判所書記課モ亦其權内ノ事件又ハ其配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付キ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第五編 司法行政ノ職務及ヒ監督權

第四百四十二條

此法律ニ依リ特別ニ司法大臣ノ行フヲ要スル事務ノ外尙ホ司法事務ノ適當ニ全國ニ行ハル、ヤチ監視

スルヲ以テ司法大臣ノ職務トス

合議裁判所ノ長區裁判所ノ判事若クハ監督判事檢事總長檢

事長檢事正ヲ司法大臣ノ由テ以テ右職務ヲ行フノ官吏トス

第四百四十五條

前條ニ掲ケタル職務ハ左ノ方法ニ依テ執行ス

第一 司法大臣ハ總テノ裁判所及ヒ檢事局ヲ監督スルノ

權ヲ有ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第三 控訴院長ハ其控訴院及ヒ其管轄區域内ノ總テノ下

級裁判所ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第四 地方裁判所長ハ其裁判所若クハ其支部及ヒ其管轄

區域内ノ總テノ區裁判所ヲ監督スルノ權ヲ有ス
第五 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ其裁判所
所屬ノ書記及ヒ其他ノ官吏(判事ヲ除ク)ヲ監督スルノ權
ヲ有ス
第六 檢事總長ハ其檢事局及ヒ總テノ下級檢事局ヲ監督
スルノ權ヲ有ス
第七 檢事長ハ其檢事局及ヒ其局ノ附置セラレタル控訴
院管轄區域内ノ總テノ檢事局ヲ監督スルノ權ヲ有ス
第八 檢事正ハ其檢事局及ヒ其局ノ附置セラレタル地方
裁判所管轄區域内ノ總テノ檢事局ヲ監督スルノ權ヲ有
ス
第一百四十四條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ權ヲ含ム
第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付キ其

注意ヲ促シ并ニ限リタル時間ニ適當ニ其事務ヲ取扱フ
コトヲ之ニ訓令スルノ權
第二 官吏ノ公務施行上ト否トニ拘ハラズ其地位ニ不相
應ナル行狀ニ付キ之ニ諭告スルノ權但此諭告ヲ爲ス前
其官吏ヲシテ辨明ヲ爲スコトヲ得セシムルコトヲ要ス
第一百四十五條 第二十一條及ヒ第九十條ニ掲ケタル官吏ハ第
百四十三條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ含
ム
第一百四十六條 裁判所若クハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其職
務ヲ行ハサル者又ハ其行狀其地位ニ不相應ナル者ニ付キ第
百四十四條ヲ適用シ能ハサルキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス
第一百四十七條 前數條ヲ以テ與ヘタル司法行政ノ職務及ヒ監
督權ハ判事若クハ檢事其官吏タルノ資格又ハ其他ノ資格ヲ

以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付キ其請求ヲ満足
セシムル爲メ之ヲ執行スルヲ得ス其請求ハ通常ノ裁判手
續ヲ以テ裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ要ス
第四百十八條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル總テノ抗告殊ニ
或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若クハ拒絕ニ對ス
ル如キ抗告ハ總テ此編ヲ以テ與ヘタル司法行政ノ職務及ヒ
監督權ニ依リ之ヲ處分ス
第四百十九條 裁判所及ヒ檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル
判事若クハ檢事ノ要求アルキハ法律上ノ事項又ハ司法行政
ニ關スル事項ニ付キ意見ヲ表ス
第二百五十條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ
其訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表シ其利
益ヲ防護ス

第二百五十二條 此編ニ掲ケタル前各條ノ規定ハ如何ナル方法
ヲ以テスルモ裁判上執務スル判事ノ獨立ニ影響ヲ及ホシ又
ハ之ヲ制限スルヲ無シ

